

## ■通学方法について

### 質問

- ①奥出雲交通での通学が、将来にわたり安定性が確保されるのか心配。運転手確保と予算について、具体的な対策と計画を教えてください
- ②3キロ以内は徒歩通学とあるが、冬季期間は雪により歩道が歩けない。冬季期間はバス通学の対応を検討してもらえるのか？
- ③児童クラブへの通学方法について、詳細を教えてください
- ④ファミリーサポートとマイカー通学について、具体的な内容を教えてください

### 要望

- ①徒歩通学の基準3キロを緩和して欲しい

横田小と八川小の距離が約3キロ。今まで徒歩通学をしていた児童達が、場所によってバス通学と徒歩通学に別れてしまう。帰り道は集団登校が困難な為、特に低学年を一人で帰すのは危険であり、3キロ以内であっても、集落単位でのバス通学を許可して下さい。

国道沿いの徒歩通学は、交通量が多く安全面に不安がある上に、誘拐の危険もある。

(過去にストーカーの被害有り)

- ②バス通学について

バス停までの歩行区間の安全面の整備と屋根付きのバス停を設置して下さい

(昨今、ゲリラ豪雨と雷の危険が増しており、通学面の安全対策にお金を掛けて下さい)

- ③バスの増便が必要。またJRのダイヤを変更の上、汽車通も検討すべき(木次線を守る為にも)
- ④以上のことから八川小の父兄は、通学面で多くの不安を抱えています。

通学面での不安が大きくなると、子供の通学負担を考慮し、若い人達が八川地区への移住を諦めるケースが増えてきます。遠方の集落から消滅するのは時間の問題です。

今回の統合が八川の未来に与える打撃は甚大であり、せめて「スクールバス」を完備し、安心して子育てが出来る環境を整えて下さい。

スクールバスは奥出雲交通である必要はなく、地域のボランティア団体での運営で構いません。

子育て環境の整備は、町の諸課題の中でも一番優先度が高いものです。ここでお金を惜しむと、奥出雲町の人口減少が加速し、町自体が消滅してしまいます。自然の中で子育てをしたい若い人達を、いかに奥出雲町がキャッチしていくか。全国一の子育ての町を目指して下さい。

## ■その他、町に質問したい事、意見、要望をご自由にお書き下さい

- ①統合小学校とは別の案として、「3地区の小学校のキャンパス化構想」を検討して欲しいが不可能か？

例えば、八川小・馬木小・鳥上小を1・2年生のみ通う学校にする(全国に事例有り)

例えば、冬季期間は、八川小・馬木小・鳥上小をリモート授業の場所として使用する

例えば、八川小校舎を児童自立支援の学校にする(全国に事例有り)

例えば、従来の分校とは違い、基本的には現横田小での授業を基本とするものの、八川・馬木・鳥上の校舎も八川キャンパス・馬木キャンパス・鳥上キャンパスと称して有効活用する(リモート授業含む)

必ずしも、毎日現横田小へ通うのではなく、授業内容に応じて各キャンパスの通学を取り入れる等

- ②統合のメリットとして、先生の配置基準の加算があり専門的な先生の人数が増えると聞いているが、統合

前と統合後の解り易い比較図を具体的な数字を付けた上で示して欲しい（モデルケースで可）

③統合後、地域行事の参加における学校の特別な配慮がなされない事を問題視している。

これでは三世代交流や祭り等の地域行事が廃れてしまう。協力・支援体制の再検討を強く求めます

④統合時に精神的な負担が掛らないように、統合前に4地区の交流を深める取り組みを希望します。又、統合になじめなかった子供へのメンタルサポート体制の整備を求めます。

この件について、町の具体的な方針・考えを教えてください

（その他）

- ・再編協議の運営には、多大な労力と時間を費やしてる事を、町にも分かって欲しい。結論を出した後、地域の皆様に報告する際には、世代間のギスギスや若者の流出が起こらないようにしなければならないが、これを協議会が背負うのは余りにも大きな負担。そこには中立な立場で話せる人が必要であり、地域と協議会の間を取り持つ教育委員会のサポートを強く要請します。
- ・もっと住環境を整備し、Uターン・Iターン者が住みやすい町づくりをして欲しい。自分がUターンした際には、「定額を満したので補助金の支給はありません」と役場に言われた。このような町に人が住みつくはずはなく、U Iターン者への支援金をしっかり確保する町運営を望みます。今のままでは人口は増えない
- ・この機会に、統合の話だけでなく、これ以上児童数が減らないようにする為にはどうすれば良いかを考えて欲しい。子供達が将来この町に戻って来たいと思う町づくり、雇用対策が必要です
- ・故郷に想いを馳せる優秀な人材の教育を望みます

## ■八川小単独存続案について、質問、意見などご自由にお書き下さい

- ・デメリットの方が多い。中学に進学した時に不安がある。また、八川だけ単独存続した場合には、中学でイジメに合う可能性が高くなると思う
- ・延命措置にしかない
- ・小学校という社会に入るにあたり、少人数の学校では、社会性を育むのが難しい
- ・(学習面では少数・個別指導の方が優れてる点については) 統合小学校になっても、学習が疎かになるとは考えにくい。先生にきちんと対応してもらえる
- ・過去にも高田・高尾・三沢小学校は人数が少なかったが、同級生の中で、彼らのコミュニケーション能力や学習、そして社会性が劣っていたとは思わない。他も合併しないのであれば、複式学級でも良いと思う。しかし、他地区が統合した場合、他地区の児童は多くの共通した経験を積むのに、八川の子だけが少人数・複式学級の制限された体験しか積めないのは可哀そうであり、中学で一緒になった時に悪影響が出ると思う。
- ・大人数のクラスの方が、友達が沢山出来て良い
- ・八川単独存続は、色々な面で困難であり、統合が望ましい
- ・現在の八川小に教育上のデメリットがあるとは思えない。寧ろ、八川の豊かな特色を活かして素晴らしい教育がなされてると思う。しかし、10年、20年先を見ると、やはり4地区統合が望ましく、この機会に統合することを望みます。より良い八川地区にする為には、地域の皆で活性化策を考え、工夫していけば良い
- ・目先の数年ではなく未来を見通せば、統合はやむを得ない。しかし、小学校の機能として何らかの形で八川小を残す事を望みます。デメリットはメリットにチェンジ
- ・スポ少活動がなくなるのは淋しい
- ・少人数の学校で育った子供が社会性・コミュニケーション能力の点で劣るという事はない
- ・統合して同級生の人数が増えた方が、人間関係の面で学べる事が多くなるので良い
- ・統合後の学習面に不安を感じてる人がいるが、それは先生に任せておけばよく、ここで議論しなくても良いと思う
- ・単独存続した場合は、体育などグループ活動が十分に出来ない。多様な意見を学べる機会も少ないので良くない。
- ・子供の人数が減少してる中で、単独存続は厳しいと思います
- ・少数学級のメリットもあるでしょうが、子供達には、一定数以上の学級で過ごす中で人間関係や社会性を学んで行って欲しいです
- ・八川地区も少子化は進んでいます。数年後に何人の子供達がいるのでしょうか？単独存続は無理だと思います
- ・この問題を先送りにすれば、将来今より少ない人数で決断をしなければならなくなる。そのような負担を将来の保護者に強いるべきではない
- ・八川独自の行事や母校がなくなるのは淋しい想いもあるが、子供達の学び・成長・メンタルを思うと、統合は致し方ない。統合の時期も4年後がベストだと思う
- ・単独存続は現状難しい。後で統合するよりも、始めから一緒になる方が、サポートもしやすいのではないかと？ 今後更に子供も保護者も減少するので、今回統合した方が良いと思う
- ・現実的に存続案は難しいのでは？ メリットよりもデメリットの方が多い。いずれ統合する時期がくる。始めから統合した方が子供たちの為になる。
- ・若い人達に「住みたい、八川小へ通わせたい」と思っていただけのように、八川を魅力ある地域に変えて

ゆけば良い学校になると思う。しかし、それには時間がかかるし、令和7年の時点の児童数は既に少なくな  
く（一学年3人～5人）、我が子の為を思うと単独存続は厳しい。八川地区活性化の活動は、今以上に取り  
組みたい

## ■通学方法について、質問・意見・困る事などをご自由にお書き下さい

- ・バス停まで一部狭い歩道があるので、安全対策をして欲しい。冬の除雪も必要
- ・集合場所の確保と見守りの人が必要（バス停までの徒歩区間含む）
- ・スクールバスは必要。人出不足、資金不足は分かるが、スクールバスの導入を最大限に検討をすべき  
（自治体での運営がベター。奥出雲交通は営業利益を出す努力をしていないので、それは児童の通学と切り  
離して行うべき）
- ・バスの増便が必要。またJRのダイヤを変更の上、汽車通も検討すべき
- ・バスの定期代の負担は大きいけど、歩くよりは良い
- ・ファミリーサポート（送迎サポート）等があれば、具体的な内容を教えて欲しい
- ・今のダイヤでは無理。子供達がかわいそう。スクールバスの導入か奥出雲交通の便を増やす。お金をかけ  
るべきところに、きちんとお金を出して欲しい。
- ・児童クラブへの通学方法について、詳細を教えて欲しい
- ・バス通は、乗り遅れもあるし、人数が多すぎると安全面に問題が生じるので、増便して欲しい
- ・奥出雲交通が本当に十分に対応出来るのかどうか、私達に示して欲しい。将来的な人材の確保が可能なの  
か？ 不安を感じてる
- ・昔は汽車通学が出来た。汽車通学が出来たら良いと思う。冬季も含めて。
- ・バスの定期券を無料支給してくれると嬉しい
- ・バス通学は、公共交通機関の乗り降りを体験できるので、とても良い事だと思う
- ・歩道の確保。横断歩道と信号機の充実。通学の更なる安全面の確保を希望します
- ・スクールバスは実現出来ないと思います。雇用につながるとか言っていますが、奥出雲交通で募集をかけて  
も集まらないでしょう。スクールバスは労働時間が限られる（賃金が安い）。人手不足は、どの業界も深刻  
なはず

## 古市（3キロ未満の徒歩通学エリア）について

- ・冬季の徒歩通学の対策案を示して欲しい
- ・徒歩通学の方向で検討し、良い策を講じなければならないと思う
- ・横田小の現状（3キロ以上でも徒歩通学の事例有り）を考えると、3キロ未満は徒歩通で仕方がない
- ・集合場所を横田寄りに近づける等の工夫をし、歩く負担を軽減する案も良いと思う
- ・冬季期間（例えば10月～3月）はバス通を希望
- ・横田小の徒歩通学の現状を考えると、徒歩通学エリアは3キロのままで良いと思う
- ・古市の場合は児童数も多いから集団登校が可能。例えば、だんだん市場を集合場所として、そこから歩いて  
ゆけば良いと思う
- ・低学年が3キロも歩くのは、とても辛いと思われる。中間地点で集合してから集団登校が良いと思う
- ・下校時の安全対策と通学方法の検討を望みます
- ・徒歩通学が3キロ圏内という基準は、今の令和にはそぐわないと思います。低学年は1時間もかけて通学  
したら疲れが出ます。子供の体力は昔と比べて低下していますし、通学班の人数も少ない。安全面も考慮  
し、1キロ以上でバス通を許可しても良いと思う。

- ・八川小の児童は、3キロ以上にすると大半が徒歩通学になる。2キロ以上がバス通で良いと思う
- ・八川地域の子供達は国道に出ればバス通が可能。古市も、距離を2キロに緩和すればバス通が出来る
- ・徒歩通学で良い。現状のように民生委員の方に一緒に歩いてもらえると安心です。歩くことは良いことで  
すし、上の学年が下の学年の面倒を見ることも、社会性への成長に繋がると思います
- ・低学年の子達の負担が心配。又、交通量の多い国道沿いを歩く場合の安全面に不安がある（下校時含む）
- ・集合場所を工夫する方法は良いと思います。人数が揃って通学するのであれば徒歩通学でも構いません。  
冬季期間はバス通を希望します
- ・同じ3キロでも道路事情によって親の心配は異なる。子供が歩いて安心な通学方法だとは思えない。高学  
年と一年生では歩く速度が異なる。幼稚園までは車で送り迎えの子供達が、いきなり3キロ歩けるのか？  
冬は毎日登校前に誰かが除雪をしなければならなくなる
- ・3キロも歩くのは負担が大きい。バス通学にして欲しい
- ・徒歩3キロ・1時間は子供がかわいそう。又、登校時は高学年と集団登校出来ても、帰りは低学年だけに  
なるので心配。地区毎に通学事情は変わってくるので、慎重に検討願いたい。

## ■その他、町に質問したい事、意見、要望をご自由にお書き下さい

- ・統合には賛成です。学習の足並み、物品の準備などスムーズな移行を宜しく願います
- ・統合した場合、八川の地区民運動会や八川の各種行事はどうになってしまうのか？今の町の方針通りにこと  
が進めば、八川との交流がなくなってしまうのではないか？
- ・統合に向け、メンタルサポートについては、どのように考えてるのか？お教え願いたい
- ・4地区統合した場合、運営・教育にかかる経費は、いくら削減できるのか。具体的な金額をお教え願いた  
い
- ・再編協議の運営には、多大な労力と時間を費やしてる事を、町にも分かって欲しい。結論を出した後、地  
域の皆様へ報告する際には、世代間のギスギスや若者の流出が起こらないようにしなければならないが、  
これを協議会が背負うのは余りにも大きな負担。そこには中立な立場で話せる人が必要であり、地域と協  
議会の間を取り持つ教育委員会のサポートを強く要請します。
- ・もっと住環境を整備し、Uターン・Iターン者が住みやすい町づくりをして欲しい。自分がUターンした  
際には、「定額を満したので補助金の支給はありません」と役場に言われた。このような町に人が住みつ  
くはずはなく、U I ターン者への支援金をしっかり確保する町運営を望みます。今のままでは人口は増え  
ない
- ・八川小学校の校舎は新しい。統合小学校においても、有効に活用する考えはないのか？ 伺いたい
- ・八川地区の地域行事の参加に対する統合小学校の協力体制を、前向きに検討して下さい
- ・子供達の精神的な負担が掛らないように、統合前に4地区の交流を深める取組を希望します。この件につ  
いて、町の具体的な考えを教えてください
- ・この機会に、統合の話だけでなく、これ以上児童数が減らないようにする為にはどうすれば良いかを考え  
て欲しい。子供達が将来この町に戻って来たいと思う町づくり、雇用対策が必要です
- ・故郷に想いを馳せる優秀な人材の教育を望みます